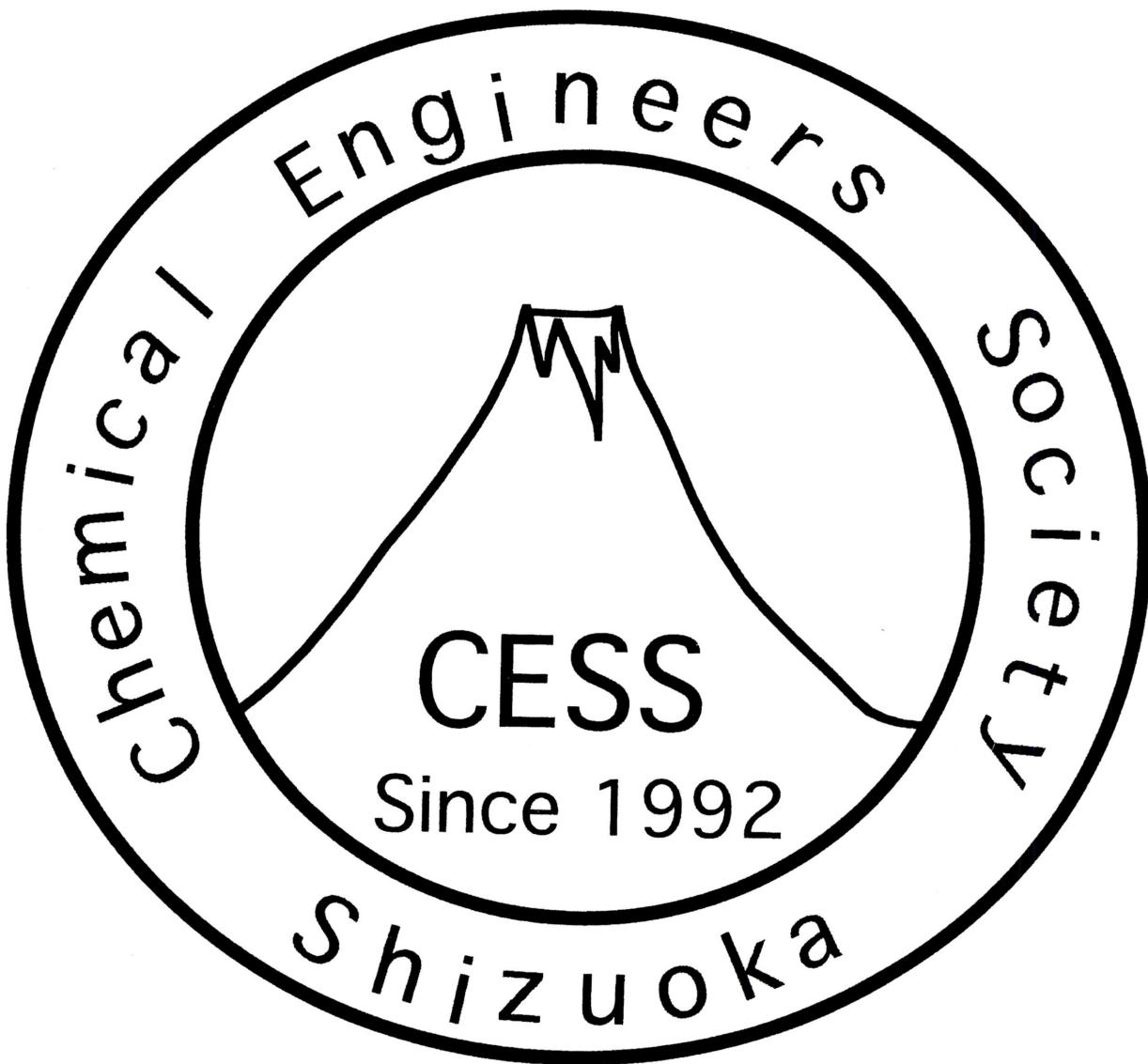


# 静岡化学工学懇話会

## 会報

第6号



## 目 次

ご挨拶（静岡化学工学懇話会会长 鈴木孝典）	1
平成9年度事業報告	2
平成9年度総会顛末記	3
第13回静岡コロキウムを終えて	5
第5回静岡フォーラムを終えて	6
第14回静岡コロキウム報告	8
第15回静岡コロキウム顛末記	11
第6回企業技術交流会顛末記	13
平成10年度事業計画（案）	16
会員企業ルポ	17
法人会員名簿	19
個人会員名簿	20
編集後記	23

# ご挨拶

静岡化学工学懇話会

会長（平成10,11年度） 鈴木 孝典



勝沢英夫前会長のあとこの会長として、今年度仰せつかりました鈴木孝典です。精一杯務めるつもりですので、どうぞよろしくお願ひ致します。

今年から新しく取り上げた研究会運営上の変更点と活動状況をご報告申し上げ、ご理解とご協力をお願ひすることに致しました。

研究会の行事に関して、従来の運営方法を少々変えていく必要がある時期にさしかかっていると思われます。

その1つには、行事が多すぎるとのご意見が役員会であり、例年ですと静岡コロキウムは年に3回行なっていましたが、今年度は行事予定表に記載しました通り2回に減らすことにしました。また内容については、研究活動が学術的になりすぎず、会員企業にとって、より実入りのあるテーマを取り入れるためにも、今後は定期的な幹事会を設けてテーマの選定を行っていきたいと思っております。会員の皆様におかれましても、こう云ったテーマをとのご意見を是非お待ちしています。

今後の研究会運営において重要と思われる課題には、他の研究会等との交流と共生があり、企業技術交流会では今後も共催する方向で進めて行きたいと考えています。

長引く政治経済の混迷に引き摺られ、ほんの一部の企業、職場を除いて、不況の渦から抜け出せないでいるのではないでしようか。昨年はこんな会社がと思うような劇的な倒産がありました。マネーゲームにとらわれず、地道な研究開発が必要です。地球環境保全が叫ばれている中、リサイクル技術など化学工学に寄せられる期待が今日ほど大きいことは過去に少なかったと思います。

会員の皆様のご意見をできるだけ反映するように、微力ではありますが努力していく所存です。最後になりましたが、本年度も変わらぬ研究会へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 平成9年度事業報告

## 主催

年月日	名 称(テーマ)	開催場所(主担当者)	参加者数
9.4.1	会報 第5号	(岡野・河合)	
9.5.9	総会・講演見学会	駿東郡 (木下・勝沢) コミュニティながいづみ 協和発酵工業株式会社 『制癌剤前臨床試験の課題と問題点』	32名
9.7.11	第13回静岡コロキウム	浜松市 (野田) 静岡大学工学部図書館視聴覚室 『夢は宇宙へ』	77名
9.9.26	第5回静岡フォーラム	浜松市 (瀬野) アクトシティ 『地下水・土壤汚染問題とその周辺技術』	69名
9.10.2	第14回静岡コロキウム	静岡市 (松本) たちばな会館 『新しい環境素材の創出』	67名
9.12.12	第15回静岡コロキウム	沼津市 (飯塚・日吉) 矢崎電線株式会社 『21世紀のバイオテクノロジー』	54名
10.1.30	第6回企業技術交流会	静岡市 (鈴木孝・松本) クーポール会館 『最近の環境技術から』	98名

## 共催

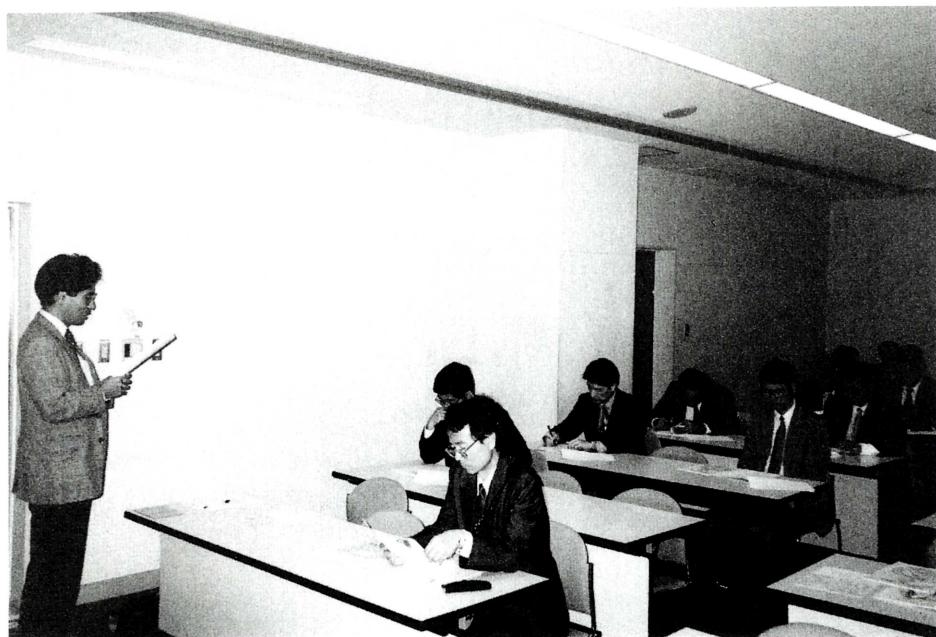
- 9.6.4~6, 11~13 第21回基礎化学工学演習講座  
化学工学会東海支部(主催)
- 9.10.15 薄膜分科会講演会  
化学工学会膜工学特別研究会(主催)
- 9.10.22~24 第31回化学工学の進歩講習会  
化学工学会東海支部(主催)
- 9.12.12 薄膜分科会講演会  
化学工学会薄膜工学特別研究会(主催)

## 平成 9 年度総会顛末記

本年度の総会は、平成 9 年 5 月 9 日（金）に JR 御殿場線下土狩駅前のコミュニティーながいづみで、その後、会場を協和発酵工業株式会社に移して、講演・見学会をおこなった。

13：00 から総会が開催された。まず、会長の勝沢氏の挨拶から始まって、平成 8 年度事業の報告・決算の承認を行った。引き続いて、本年度の事業計画と予算案を承認した。本年度も昨年までと同様、静岡コロキウムが 3 件、静岡フォーラムおよび企業技術交流会が 1 件づつの全部で 5 つの行事を主催することとした。

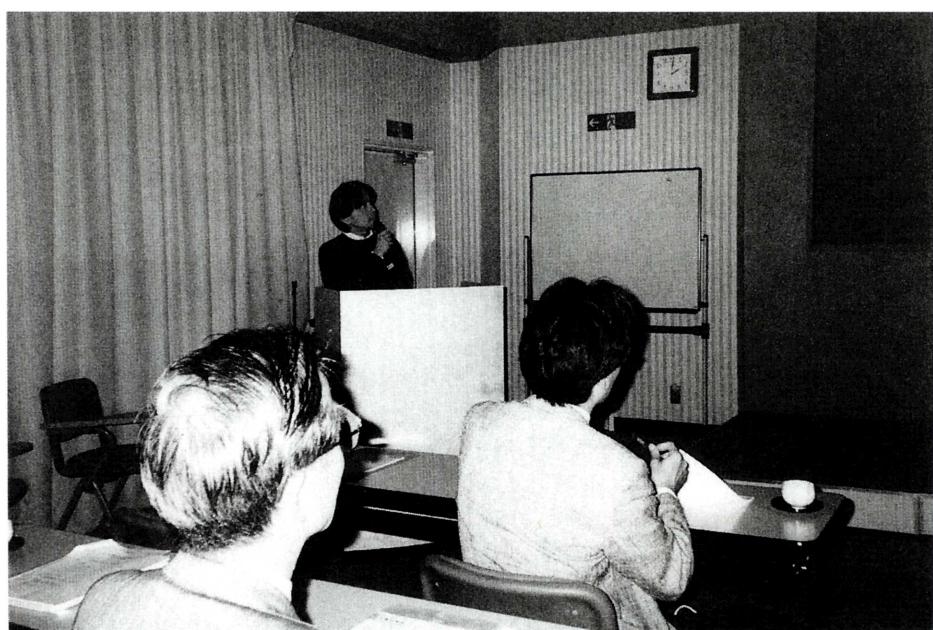
14：00 から講演会が行われた。講演は協和発酵工業株式会社の秋永士郎氏による”制癌剤前臨床試験の課題と問題点” というテーマで、制癌剤の新薬開発までの長い道のりについて講演して頂いた。新規物質をスクリーニングしてくる探索研究に続き、前臨床試験といわれる生化学・薬理研究を経て、効果があり安全性試験にもパスしたものだけが治験届けを出すことができ、その後の臨床試験から承認申請に至るまで 15 年以上、100 億円以上の費用を注ぎ込んで新薬ができるといへん興味深い講演であった。



引き続き見学会が行われた。まず、協和発酵工業株式会社富士工場工場を見学させて頂いた。その後、質疑応答があり、全ての行事が16:00頃終了し、現地で解散した。講演・見学会への参加者は32名、多数ご参加頂き、盛会のうちに講演・見学会を開催することができた。

最後に総会・講演・見学会のお世話を頂きました沼津工業高等専門学校の勝沢、木下両先生に深く感謝致します。

(静岡大学工学部 中崎清彦 記)



## 第13回静岡コロキウムを終えて

梅雨末期の大霖が各地で猛威を振るう中（浜松は小雨）、第13回静岡コロキウムが、7月11日（金）13時30より、静岡大学工学部図書館視聴覚室で“夢は宇宙へ”というテーマで開催されました。

テーマが化学工学とは直接関係が薄かったためか、企業の方々の参加者はあまり多くありませんでした。それでも県の工業技術センター・静岡大学工学部化学工学関係の方々、合計75名の参加者を得ました。

会長の挨拶の後、最初に、実際の製作に長年従事してこられた三菱重工業株式会社名古屋誘導推進システム製作所副所長の山崎勲さんに、最近の宇宙輸送系の動向という演題でご講演いただきました。最近のH改良型ロケットを中心に、その開発から改良（コストダウン）について、ロケットの基礎の構造から将来の展望まで詳しく述べられました。日本のロケット技術の現状（素晴らしさ）を強調されました。

コーヒーブレイクの後、日本のロケット関係全体のプロジェクトをリードして来られた元筑波宇宙センター所長で現在静岡大学工学部機械工学科教授の宮澤政文先生に、最近の宇宙開発の現状と将来という演題でご講演して頂きました。世界的な観点からロケットプロジェクトの様子を分かりやすく解説していただき、また将来の夢を語っていただきました。

時間の経過も忘れる位のご講演または質疑討論で終了（16：30）が予定より超過しましたが、そのころには雨も上がり大変楽しい講演会がありました。

（静岡大学工学部 野田勝嗣 記）



## 第5回静岡フォーラムを終えて

第5回静岡フォーラム「地下水・土壤汚染問題とその周辺技術」が化学工学会東海支部、静岡県資源環境技術研究会との共催で平成9年9月26日（金）に浜松アクトシティ・コンгрессセンター43会議室にて開催された。近年、トリクロロエチレンやテトラクロロエチレンなどの発ガン性を有する揮発性有機塩素化合物、工場跡地などにおけるカドミウム、水銀などの重金属による土壤・地下水汚染が社会問題となっている折り、県内の企業技術者、県環境衛生科学研究所をはじめとする公立研究機関の研究者、大学関係者など多数の（合計80名）出席が得られた。

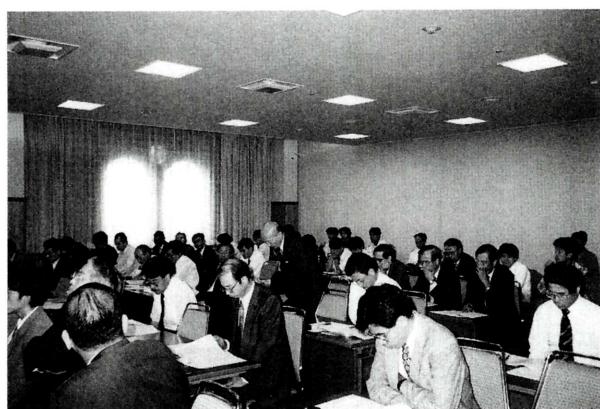
静岡県環境衛生科学研究所所長・中村信也氏、懇話会会長・勝沢英夫氏の開会の挨拶、今回のフォーラムの司会である静岡大学工学部・瀬野忠愛によるフォーラムの趣旨および地下水・土壤汚染修復技術の概要説明の後、この分野で活躍されている研究者による講演発表（各30分）が行われた。静岡大学工学部・中山顯氏より「多孔質体内の熱流動の数値シミュレーション」と題して、多孔質体の熱流動に対して通常経験的に用いられている巨視的モデルについて、第1原則（質量、運動量、エネルギーの保存則）を適用し、直接数値計算によりその経験則の有効性が証明されるという興味深いお話をしていただいた。次に、名古屋大学工学部・中村正秋氏より、「一般廃棄物焼却灰からの浸出特性—Caイオンについて—」と題して、埋め立て処分場からの有害物質の浸出に関する話題を提供していただいた。排出ガスの吸収剤として使用されているカルシウム系アルカリ剤を想定して、特に、Caイオンについての浸出特性について詳述していただいた。講演者を囲んで昼食を取った後、午後のセッションに入った。大阪大学基礎工学部・平田雄志氏には「電場印加による汚染土壤の浄化」についてご講演いただいた。土壤中の汚染物質を電気泳動、電気浸透を利用して除去する方法で、その原理の解説と銅の除去に関するベンチ・スケールの実験結果についての報告であった。鹿児島大学・農学部の糸井和朗氏には「地下水中における水理化学的物質輸送解析」と題して、土壤中汚染物質の移流分散シミュレーションに関する話題を提供していただいた。従来の移流分散方程式にイオン交換反応を組み込んだモデルを数値的に解くアルゴリズムは興味ある話題であった。物質工学工業技術研究所の増岡登志夫氏には「土壤・地下水浄化技術の現状と膜分離法による浄化プロセスの開発」と題してご講演いただき、続いて、国立環境研究所の矢木修身氏に「バイオレメディエーション技術を活用した汚染土壤の浄化」についてご講演いただいた。両技術とも実地検

証の段階に入っており、また、興味のある話題のため、参加者から多くの質問がなされた。環境問題は工学的な技術のみでは解決できないため、今回は特に県環境衛生科学研究所の飯嶋章一氏を招待し、「静岡県の地下水汚染の現状と監視体制」についてご講演していただいた。最後に講演者をパネラーとした総括討論を行い、活発な質疑応答、議論が行われた後、講演発表の部を閉会した。

その後、浜松名鉄ホテルに場所を移し、懇親会会長・勝沢英夫氏の音頭により懇親会を行った。参加者は講師の先生方を交え、お互いおおいに歓談し、無事に全プログラムを終了した。

フォーラム開催にあたり、適切なご助言、ご協力を賜りました静岡大学工学部・中崎清彦先生ならびに静岡県資源環境技術研究会事務局の方々に深く感謝の意を表し、ここに厚く御礼申し上げます。

(静岡大学工学部 濑野忠愛 記)



# 第14回静岡コロキウム報告

## 「新しい環境素材の創出」

平成9年10月2日、「新しい環境素材の創出」に関する講演討論会が、たちばな会館（静岡市内）で開かれました。参加者は、74名と盛況でした。今回の企画は静岡県環境技術研究会との共催で行われました。講演は次の2テーマで、最後に静岡大学工学部の須藤教授を進行役とする総合討論の場を設けました。

### ● 「抗菌性セラミックスによる水まわり汚れ制御」

（株）INAX

素材工学研究室チーフ 今井茂雄 氏

### ● 「放射線グラフト重合の基礎と応用 大気系／水系の浄化技術」

（株）荏原製作所

RIGPフロタクトマネージャー 赤堀昌二 氏

今回の主題は、「新しい環境素材の創出」でした。これは材料を改質して機能性を与え、環境浄化に応用しようとする試みで、新たな環境ビジネスに結びつけるシーズ探しとして、価値ある事例発表の場であったと思われます。また、講演も基礎と応用を適度に盛り込んだ内容でした。

（株）INAX、今井先生の講演概要を述べます。最近は抗菌性流行りと言われますが、抗菌という言葉そのものは、このごろの快適志向や清潔志向の高まりの中から生まれたもので、厳密な定義があるわけではありません。しいて言えば、生活環境に生息する”細菌”を対象として、その効果を長期間維持させること。その効果とは、殺菌レベルが”制菌以上で殺菌以下”であることを指します。抗菌性を示す物質は天然由来のもの、さらに有機・無機物質でも様々なものが知られていますが、その多くは抗菌剤表面で生じる活性酸素による参加作用です。ここでは（株）INAXによって開発されましたセラミックスの抗菌化、それを衛生陶器に利用することを中心に話されました。一般家庭においても、トイレや洗面、浴室などの水まわりにセラミックス製品は使われていますが、さらに衛生的に保ちたいという要望から、ぬめり、黄ばみ、悪臭などの細菌が関与する汚れ対策として抗菌処理が採用されるようになってきています。セラミックスは焼結のために高温（タイル・衛生陶器では1100～1300℃）を必要とすることか

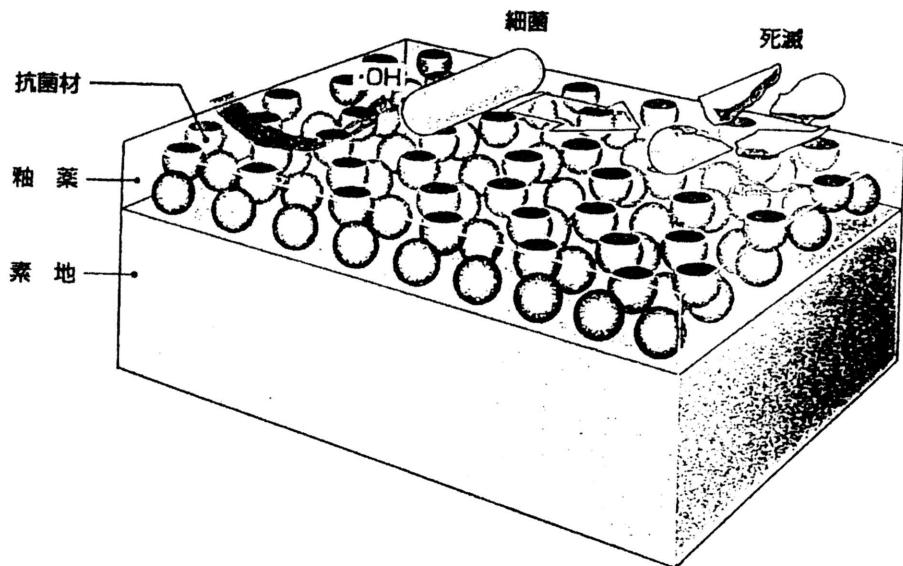


図1 抗菌性セラミックスの構造図

ら、安定性を示す無機系抗菌剤が使用されます。図1の様に、陶器素地へコーティングするガラス質層（釉薬）中に銀系抗菌剤を添加し、焼成して抗菌効果を出します。現在のところ、無機系抗菌剤の中では、「銀」が最も安全かつ効果を発揮するようです。ここでは高温焼成による分解と着色を抑えることや、均一に抗菌剤を分散させることも重要なノウハウです。また、製品の抗菌力評価の方法は、(財)日本食品分析センターが薦めている、フィルム密着法に従っているとのことでした。(詳細はテキストをご覧下さい。) 講演の中では、一商品のPRというよりも純技術的な観点から”抗菌性”というものをとらえ、汚れの発生や抗菌剤の働きを分かり易く解説して頂き、大変意義深いものでした。

次に(株)荏原製作所、赤堀先生の講演概要を述べます。ここでは放射線グラフト重合法という手法を用いて、ポリオレフィン系不織布に放射線(電子線、ガンマ線)を照射し、材料表面にグラフト鎖をつないでおきます。その鎖に官能基(たとえばスルホン基やアミノ基などのイオン交換基)を化学反応によって付けると、分離性能に優れたイオン交換作用を持つ不織布が得られます。この機能素材を大気／水系で、それぞれフィルターとして利用するという内容でした。

まず、大気系での応用は、上記の方法によりイオン交換不織布ケミカルフィルターとして上市しています。通常、半導体クリーンルーム用では、強酸性カチオン纖維と弱塩基性アニオン纖維の組み合わせが標準となっていて、アンモニアや塩化水素などのガス成分を化学吸着する作用を持っています。また、低圧損であ

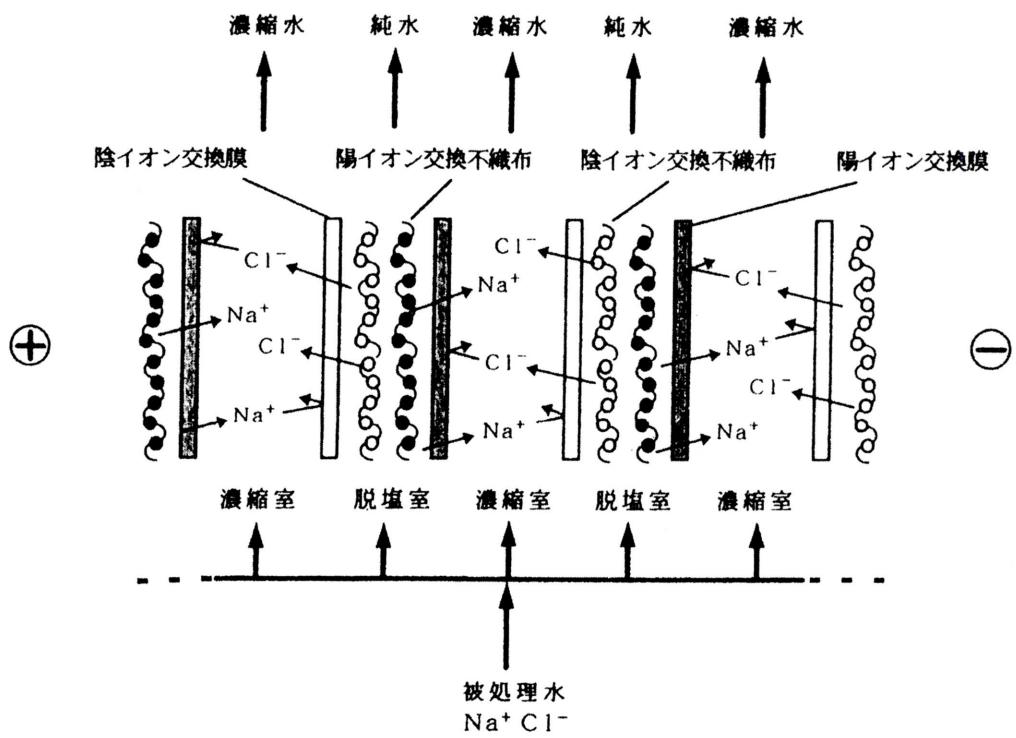


図2 電気式脱塩装置の原理

る上に、長寿命化も図っています。

次の水系での応用では、イオン交換不織布を用いた電気式脱塩装置の紹介がありました。その原理は、図2に示すように、イオン交換樹脂を脱塩室に充填している従来の電気式脱塩装置と似ています。ここでは、陰陽イオン交換纖維を脱塩室に装備しています。一般に、ビーズ状の樹脂では、ビーズ間の点接触によりイオンが移動するのに対して、架橋構造の纖維ではイオンの移動がより速いと考えられます。従って、電気抵抗が低く電流も流れやすいことから、小型電源で大容量化が図れ、コンパクトな装置にすることが可能という説明でした。

このように、両フィルターへの応用例が紹介されましたが、参加者の中には、機能性を付与する放射線の条件などに関する質問も多く、表面改質の基礎について、さらに詳細な解説が欲しいものと思われました。

(担当：静岡県静岡工業技術センター 松本 豊)

# 第15回静岡コロキウム顛末記

平成9年12月12日、第3回静岡コロキウムを矢崎電線株式会社電線センタービルで開催しました。医薬品の生産額が全国2位を占めるなど、バイオテクノロジーに関連する企業が県東部地区を中心に発達しております。そこで、今回バイオ関連に焦点を絞ったコロキウムを、当懇話会と静岡県東部地域産業振興協会（東部産技振）の共催により行いました。

コロキウムを企画するに当たり少ない予算をカバーする為、共催を働きかけ、当地伊豆蘿山高校の出身である演者2人にお願いしました。また、工場見学で企業のPRを条件に、矢崎電線（株）の会議室を借り、また年末のこともあり懇親会も企画した所、予想以上の54名の参加を得ました。

まず、東京大学生物生産工学センター教授の田之倉優氏より、『タンパク質の立体構造と機能』と題して講演を頂きました。生物生産工学センターの紹介、構造解析方法と、カラフルなスライドで分かり易くタンパク質の三次元構造を説明されました。酵素の役割が構造と大きく関わっており、働きをきちんと理解するには、構造解析が重要であると力説されました。光を発する酸化還元酵素であるクラビン還元酵素と、タンパク質分解酵素である酸性プロテアーゼの話を、かたちからその働きについて熱演を頂きました。

次に、広島大学工学部発酵工学科教授の山田隆氏より、『21世紀のバイオテクノロジー』と題して、生命工学の知識・情報を利用して、環境問題を初め現在の種々の問題を解決する技術の重要性を力説されました。人工窒素固定法、新しく発見したウイルスを中心に話をされました。前者は、豆科植物にしか出来ない窒素固定を、その原因をバクテリアと植物のやり取りを解析することで、食用になる植物に転用できれば効率的な栽培が可能になるという話です。後者は、広島によく見られる溜め池にクロレラを食べるウイルスを見たことから始まり、これをを利用して、工場の排煙中の炭酸ガスを吸収するクロレラを、更に高付加価値品に変えることができるという新しいウイルスの提案です。

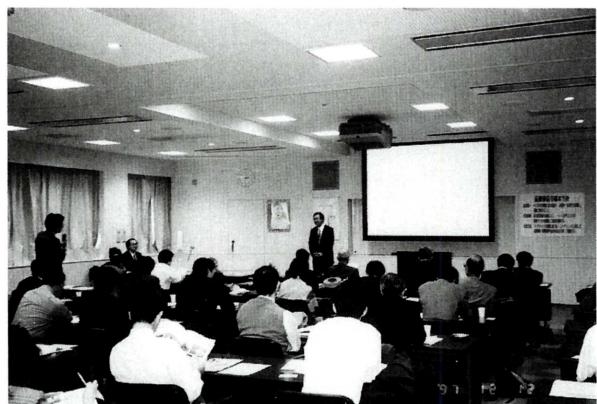
途中、矢崎グループの紹介、矢崎電線（株）沼津製作所の見学を実施しました。矢崎グループは、自動車用の組電線・計器、一般電線、ガスマータ、ガス冷凍機、ゆワイヤー等を製造・販売しており、特に海外へは積極的に進出し、国内外で10万人近い従業員を擁する企業であるとの説明を受けました。見学したのはその内、電線の製

造工場であり、伸線工程、被覆工程等でした。

懇親会は場所を移し、工場の敷地内にある従業員が利用するサロンで行いました。旭化成さんに寄贈頂いたチューハイ「ハイリキ」を味わいながら、懇話会・東部産技振のメンバーの交流に花を咲かせました。

本コロキウム開催に当たり、東部産技振事務局の旭化成（株）大仁支社には本会の準備、懇親会への格別な配慮、矢崎電線（株）には懇親会の準備等して頂き、大変お世話になりました。

(矢崎総業株式会社 技術開発センター 飯塚)



# 第6回企業技術交流会顛末記

今回の企業技術研究会は中部地区が当番になり、静岡工業技術センターの松本主任研究員と二人で本会の幹事を引き受けました。例年は県内各種企業のPRを兼ねた短時間の研究事例発表でしたが、今回は発表件数を減らし、1件当たりの発表時間を長く取って中味を濃くし、会員の皆さんに关心がある「最近の環境技術から」と題して環境問題にテーマを絞って行いました。また、静岡県内の環境問題に興味がある企業の方にもできるだけ参加して頂くために、静岡県資源環境技術研究会および静岡県静岡工業技術センターに主催、化学工学会東海支部および静岡県環境資源協会には共催、静岡県プラスチックス研究会には協賛になって頂きました。開催する会場は、企業の方が参加しやすい場所として静岡市中心地を探し、静岡駅から歩いて行けるクーポール会館に決めました。当日は静岡県資源環境技術研究会との合同セミナーとして、98名の参加のもとに盛大に行うことができました。

研究事例および特別講演の内容は次の通りがありました。

## 1. 研究事例発表

1) 「脱フロン・トリクロロエタン対策用水系洗浄装置の開発」スズキ(株)里見氏：静岡県科学技術振興財団による産学共同研究の成果発表で、洗浄機・センサ・洗浄剤・排水処理といった多岐に亘る内容でありました。

2) 「最近のダイオキシン問題について」新日本気象海洋(株)松村氏：人間が作った化学物質約940万種のうち、ダイオキシン類には419種の数多くの似た物質、異性体があり、その実態およびフェムトグラム単位までの超微量分析方法などについて紹介されました。

3) 「廃プラスチックスの高炉リサイクル技術」NKK(株)藤井氏：約900万トンある廃プラのうちで、単純焼却または埋立分は75%もある。最近、廃棄物中の廃プラを分別・破碎・造粒し京浜製鉄所高炉に還元剤として吹き込むことによって、高炉原料として一貫リサイクルシステムを世界で初めて開発し、「96.10より操業運転を始め、年間3万トン処理する内容を紹介した。来年から塩ビも処理できるようになる。全国にある各社高炉に適用すれば、廃プラ600万トン処理できる。処理は有料で埋立費用分程度の金額とのことである。やはり都市ゴミ・産廃物の分別回収が最も肝心と付け加えられました。

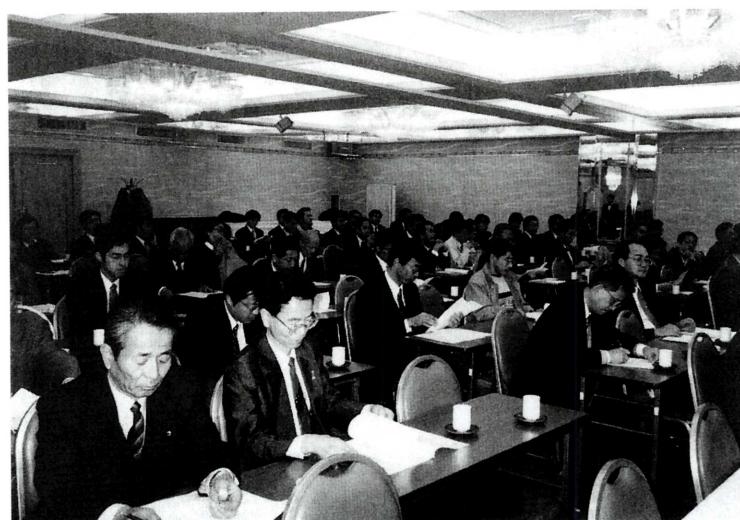
## 2. 特別講演 「地球環境問題への新しい科学的・技術的アプローチは何か」 静岡大

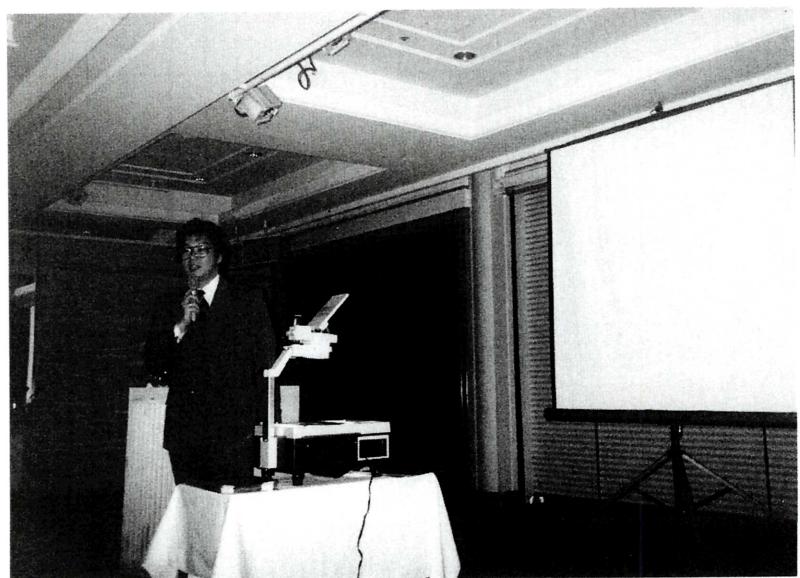
学理学部教授 鈴木款(よしみ)氏：データを根拠にした”地球は果たして破局に向かっているのか”と云ったグローバルな見方、あるいは”誰が地球環境問題をしかけたのか”と云った外交関係の網引き的な見方まで、時間をオーバーしての面白いお話を聞かせてくれた。例えば、南極でのオゾン破壊が進行していること、地球規模で毎年のCO<sub>2</sub>濃度および温度の統計を取り、温暖化は最近増加率が緩く、これは主としてSO<sub>2</sub>などのエアロゾルによる曇現象が関与していること、雲はバクテリア、アミノ酸を核にしてもできること、5 μ m以下の微粉は雨に捕捉されずにすり抜けてしまうことなど、興味ある話しが尽きませんでした。

最近の新聞記事には、ゴミ焼却場のダイオキシン問題や、1月にしては雪が多く降るなど天候の不順が炭酸ガスに起因しているのではないかと環境問題が大きくクローズアップしています。こう云った課題に対して、化学工学に期待される所は今後大きいと考えます。なお、今回の開催地の中部地区には理系大学生が少ないので仕方のないことかもしれません、企業技術交流会には企業だけでなく、学生さんにもなんとか積極的に参加してほしいと願っています。

巴川製紙所

鈴木孝典





## 平成 10 年度事業計画(案)

年月日	名 称(テーマ)	開催場所(主担当者)	参加者数
10.4.1	会報 第6号	(木村・河合)	
10.5.26	総会・講演見学会 アクトシティ地下の熱併 給発電施設見学 第16回静岡コロキウム	浜松市 サーラシティ(未定)	
10.9.	第6回静岡フォーラム	西部地区(未定)	
10.11.	第17回静岡コロキウム	中部地区(未定)	
11.1.	第7回企業技術交流会	東部地区(未定)	

3rd.

## 明星工業 株式会社 中央研究所

面会者；取締役 所長 小田興嗣氏  
所長代理 足立学氏

会員企業を訪問し、その様子をご紹介する企画ページです。今回は、引佐郡細江町にあります 明星工業株式会社 中央研究所を訪ね、会社の状況などを取材させて戴きました。

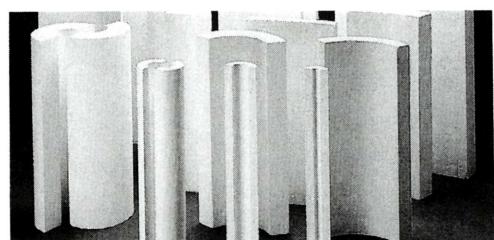
### 1. 事業概要は？

省エネや温度コントロールの為の熱絶縁工事を行なっています。対象は、プラント、ボイラー、原子炉容器そしてLNG関連設備や運搬船など広範に亘っています。極低温～高温領域まで広範囲を扱っており、かつ放射線管理体制を有しているのが当社の特徴です。工場はここ浜松地区と明石、大阪の3ヵ所にあります。従業員は外注を含め約500人おります。工事に用いる主要材料は自社生産をしており、次のようなものです。

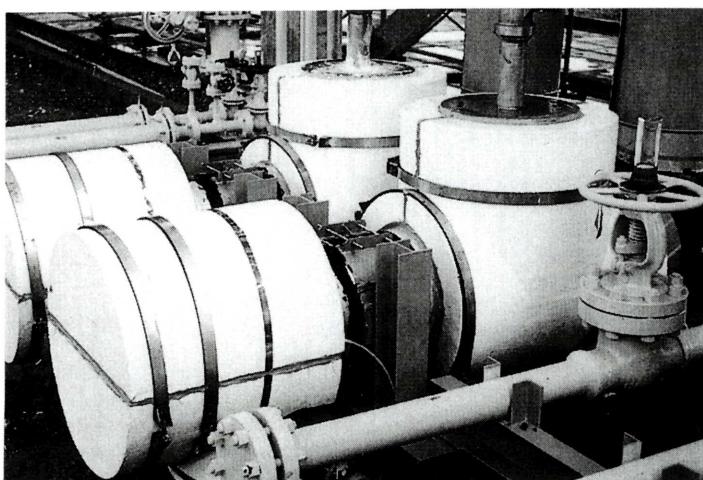
フェノール・フォーム  
真空パネル  
PUF加工品  
超軽量珪酸カルシウム保溫材  
金属保溫材



右が小田所長、左が足立所長代理



超軽量珪酸カルシウム保溫材  
「ケイカルエース」



ウレタンモールドによる施工

## 2. 中央研究所の業務は？

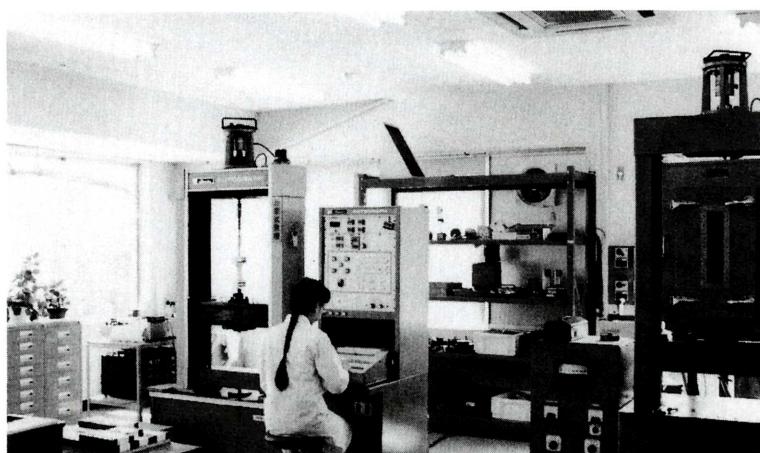
断熱について、改善、改良の研究や施工法の開発を行なっています。また設計時に  
おける確認テストや施工後の品質管理テストも実施しています。熱伝導率測定に  
する測定装置を所有しておりますが、低温での試験も出来る体制にあります。

## 3. 活用されている学問の分野は？

熱管理、熱力学そして材料工学等です。よって技術者も化学系が中心で、他に物  
理や機械系がおります。

## 4. 今後の取組テーマは？

断熱の延長線上にある仕事を追究していきます。21世紀初頭の水素エネルギー  
の実用化等に対応していくため、更に低温についての研究を実施したり、測定技  
術の向上を図っていくつもりです。



測定室

大変お忙しい中、時間を割いて戴き有難うございました。これまで社名は存  
じておりましたが、内容は実際何も知りませんでした。お陰で大変良い勉強にな  
りました。

主役のプラント等をしっかりガードするのに不可欠な仕事で、この開発や施工  
に活用されている化学工学分野の技術の尊さに感激した次第です。

リポーター；幹事

(有) ホープ・マネジメント  
河合文雄

## —————〈編集後記〉—————

化学工学懇話会が発足して6年間が経過しました。人間であれば満6歳を迎え、めでたく小学校入学という年齢に相当します。この6年間に、総会の他に、15回のコロキウム、5回のフォーラム、6回の企業技術交流会および講演見学会を開催し、計34の行事を開催しました。毎年度、様々な分野に関する盛りだくさんの行事を活発に開催し、その勢いはますます増大しております。本会が今後とも大いに発展し、満20歳の成人式を盛大に迎えられるよう、会員各位の皆様のご支援をお願い致します。

(文責 木村元彦)

## **静岡化学工学懇話会会報**

**〈第6号〉**

発行／平成10年4月1日  
静岡化学工学懇話会  
会長 鈴木孝典  
〒432-8561 浜松市城北3-5-1  
静岡大学工学部物質工学科  
化学工学コース内  
TEL／FAX (053) 476-0095

制作／静岡化学工学懇話会  
(有)ホープ・マネジメント  
TEL (053) 588-4139  
FAX (053) 588-2086